# テーマ報告　2002年

**テーマ報告**

１．施設高齢者への長期的園芸療法活動の効果

杉原式穂（環境デザイン開発研究所）

　老化という非可逆的な心身の衰えに対する活動として注目されている園芸療法について、１年間、高齢者施設での実践活動を試みた。その中で、ＱＯＬの向上、社会参加の向上、生きがいづくりなどの療法的効果を検証した。痴呆軽度、中度、高度、痴呆なしの16名を対象とし、活動直後に記録した園芸療法評価表、施設スタッフアンケート、観察記録により効果を調べた。その結果、痴呆の有無に関わらず、１年後は全員に改善の傾向が示された。今回の実践を通して、施設高齢者にとって、園芸療法が潤いのある生活を送る上で重要な役割を果していると言えた。

２．温室におけるハーブ栽培の快適性について

古橋卓・平田眞・鈴木卓・大澤勝次（北海道大学大学院農学研究科）

　温室におけるハーブ栽培時の心拍変動を測定することにより、快適性の数値化を試みた。副交感神経は昼食後、休憩時、帰宅後に大きな値を示していた。植物（ハーブ）と関りを持った午前中の作業において、交感神経の高揚が伺えた。園芸作業時の自律神経機能の測定により、栽培に取り組む場合の作業の快適性をある程度数値化する可能性があると考えられた。

３．まちづくりにおける園芸療法ガーデンの効用

瀬山和子・瀬山幸彦（日本園芸療法士協会）

　高齢化社会におけるまちづくりには、園芸療法ガーデンが適している。

実際例を示し、研究、事例報告とした。

４．市立札幌病院園芸療法庭園の植栽事例について

今田昌宏（（株）キタバランドスケーププランニング）

　市立札幌病院内に設計した園芸療法庭園は、入院患者の為だけではなく、病院を訪れる人々全員に癒しの作用を与えるための庭園（ヒーリングガーデン）として設計する所からスタートした。その後、第２段階として歩行訓練用の庭園（セラピーガーデン）を設計し、現在園芸療法のための３つの庭が完成している。ここでは、植栽された宿根草、球根類、小低木類を機能別の目的によって事例報告し、現在の生育状況を含めて紹介する。